

いとこ の森通信

1999 / No.2

100平方メートル運動の森・トラスト



この用紙は環境保全(資源活用)のため
再生紙を使用しています。



NATIONAL TRUST

知床で夢を育てませんか!
いのちあふれる森を次の世代へ

しれとこの夢

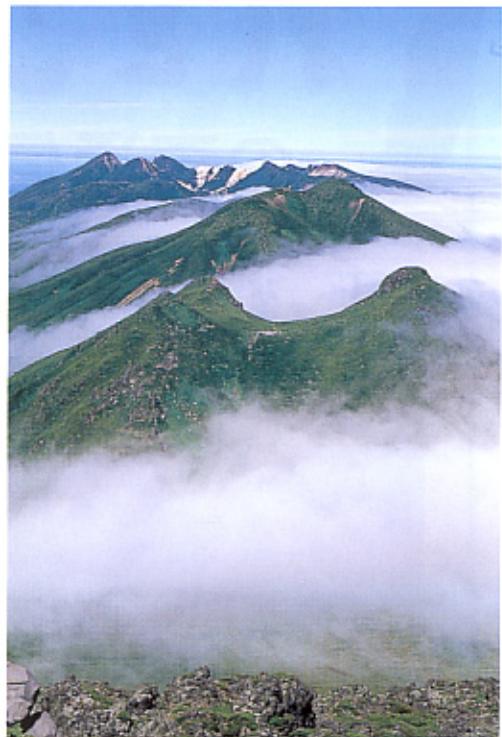


実現への歩み
3年目に

斜里町長 午東昌

しれとこの100平方メートル運動地の土地保全と自然の再生に協力いただいた全国の皆様に、知床の地より改めて御礼とご挨拶を申し上げます。平成9年度にスタートいたしました運動の新展開「100平方メートル運動の森・トラスト」も早3年目を迎えました。平成10年度にも全国1600人あまりの方々からご寄付をいただき、開拓の斧が入る以前の太古の自然の再生をめざした作業も着実に動き出しております。

私たちの歩みは小さな物ではあります、百年の夢をめざして確実に積み上げてまいります。今後ともご協力を願い申し上げます。



photo/Murata

WORLD HERITAGE SHIRETOKO

世界の遺産「シリエトク」を守る

かつてアイヌの人々に「大地の果てるところ：シリエトク」と呼ばれ、今も国内に比べるものがない原生の姿をとどめる知床半島。この地には日本一充実したさまざまな保護制度が複層的にかぶせられています。民有地を全国からの寄付金によって買い取って保全した「しれとこの100平方メートル運動」もその一翼を担っています。

今、この地の保全をさらに確かにするために、私たち斜里町はとなり町の羅臼町とも足並みをそろえて、知床を世界遺産条約登録地にしようという運動を開始しました。

- 知床国立公園 昭和39年指定、総面積：38,633ha
国公有地率96%（全国第2位）、特別保護地区率61%（日本一）
- 遠音別岳原生自然環境保全地域 昭和55年指定、総面積：1,895ha
全国5ヶ所しかない原生自然環境保全地域の一つ。面積日本一。
- 国設知床鳥獣保護区 昭和57年指定、総面積：43,172ha
知床国立公園の全域と周辺部を含む。特別保護区率45%、面積全国第2位。
- 知床森林生態系保護地域 平成2年指定、総面積：35,466ha
日本初の森林生態系保全地域。面積は全国第2位。
知床国立公園のほとんど全域が指定されている。



◆森と生態系の再生計画は、このような原則に基づいて定められます。

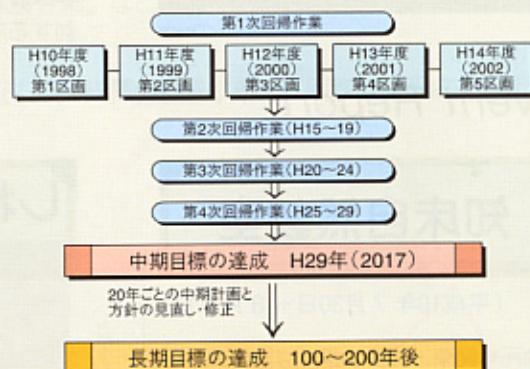
不变の原則

- 1) 植林木の生長によって余剰の樹木などが生じても、運動地の系外への人為的持ち出しあは認めない。
- 2) 自然に再生しつつある二次林では、森づくりのためであっても大規模な森林構造の急変は行わない。
- 3) 再生計画の実施にあたっては、国立公園および自然教育の場としての位置づけに配慮した森づくりを進める。
- 4) 5年一巡の回帰作業方式をとり、過去の作業結果を評価するモニタリング調査を欠かさない。
- 5) 作業計画の立案や見直しは、定期的に開催する専門委員会議に諮り、承認を得なければならない。
- 6) 野生生物とその営みの再生にあたっては、遺伝子汚染を防ぐこと。減少種の回復は、現地の個体群からの増殖を基本とする。また、絶滅種の復元では、遺伝的にも地理的にも極力近い個体群からの再導入を原則とする。

●植物生態・野生動物など各界の専門家5名と、地元の有識者2名からなる専門委員会議の中で定められたこれらの原則は、「森づくりの憲法」ともいべきものです。すべての再生計画は、この原則を遵守しながら慎重に策定されます。

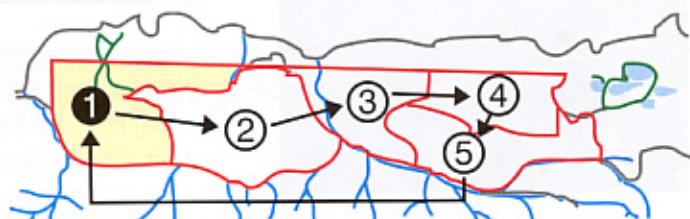
◆100年、200年後を見据えた再生作業は、このように進められています。

900haあまりの運動地全体を5つの区画に分け、5年で一巡する回帰作業方式によって順次作業を進めて行きます。この回帰作業を4回繰り返した20年後に中期目標の達成、さらに100~200年後には長期目標の達成を目指します。もちろんすべての作業結果は専門委員会議の中で評価され、必要に応じて作業計画や方針の見直し・修正がなされています。



平成10年度の主な作業

森の番人の橋本さんと補助スタッフを中心に、原生林と動物相を復元するための作業が本格的にスタートしました。近年急増しているエゾシカによる樹木被害に悩まされながらも、100年先を夢見て、根気よく作業が進められました。



H10年度の作業対象地は第1区画(図の①)でした。

■カエル産卵池ととまり木の林づくり

シマフクロウの春の餌を確保するため、エゾアカガエルの産卵池を4ヶ所造成しました。水は地中から湧き出ています。池の周囲にはとまり木となるヤナギを挿し木しましたが、早速シカの食害を受けて苦戦しています。



photo/Okada

■ササの地はぎによる森への誘導作業

密生するササ原の中に樹木の種子が落ちてもうまく生長することができません。ササを除去して地面を露出させ、隣接する森からの種子散布を待つ区画を作りました。

■天然林・二次林の調査区設定

様々なタイプの林に、森の構造などを追跡調査していくための調査区を設定して、データの収集が始まりました。これから森づくりに活かすための貴重な情報です。

(P 4へつづく)



photo/Okada

■苗畑づくり

各区画へ移植するための苗を育てるスペースをつくりました。シカの食害を防ぐための柵は必需品です。運動地内で採取した種や幼木をこの中で一定の大きさまで育て、再び各地域へ配置していきます。



photo/Yamaneika



photo/Okada

■カラマツ造林地の樹種の多様化作業

林床に待機しているトドマツなどの稚樹の生長を促進し、単純な構成の林を自然に近い多様な森へと誘導してゆきます。シカの影響を除去したエリアや、そのまま放置する場所など、作業結果を比較検討するための工夫がなされています。

Event Report

知床自然教室

〔平成10年7月30日～8月5日〕

地元や関東・関西、遠くは宮崎県から36名の子供たちが参加。様々な自然体験をするとともに、ペットボトルの再利用によるシカからの樹木保護作業で森づくりのお手伝いも。



photo/Okada



photo/Okada



photo/Okada

しれとこ森の集い (記念植樹祭)

〔平成10年9月20日〕



photo/Okada

全国各地から約70名が参加。午前中は、森の番人の橋本さんの案内で第1区画の作業地を見学。午後は、アカエゾマツの苗275本、ミズナラの苗20本を記念植樹。



photo/Yamaneika

森づくり ワークキャンプ

〔平成10年11月1日～6日〕

多数の応募者の中から抽選で選ばれた12名の老若男女（19～73才）が参加。シマフクロウ営巣可能木の保護作業や山採り苗の移植作業など、盛りだくさんのメニューを精力的にこなす。草原に座り込み、知床連山を眺めながら食べるおむすびはやっぱり格別。



photo/Okada



photo/Okada

しれとこの森に集う人々 平成10年度の交流事業のようす



photo/Okada

Topics

—エゾシカと樹木被害—

私たちが森林の再生に取り組んでいる運動地は、同時にエゾシカの良好な生息地でもあります。運動地内の岩尾別地区の生息動向調査では、1988年から1996年までの8年間で約10倍にまで増加しています。これらのシカにとって積雪期の主要な餌となるのが樹皮であり、幹の全周にわたって剥皮された場合、その木は枯れてしまいます。通常の生息密度であれば、ハルニレやオヒョウニレ、キハダ、ノリウツギなどのシカが特に好む樹木が樹皮食いを受けるだけですが、過密化が進んで餌条件が悪くなると、通常は手を出さない他の樹種まで広範囲に被害がおよぶようになります。

では、私たちの運動地は今、どの段階にあるのでしょうか？ 運動地周辺ではシカの生息数の増加にともなって、ハルニレやオヒョウニレの枯死木が増加し、樹皮食い痕のないものはほとんど見かけないほどになっています。また近年、これまで手を出さなかったカラマツ、ミズナラ、イタヤカエデ、トドマツなどの小径木にも樹皮食いが見られるようになってしまいました。森林再生作業のなかに、「防鹿フェンス」「樹皮保護作業」などのことばが度々登場するのはこのためなのです。

現状では、柵などを用いた物理的な隔離をしない限り、エゾシカが好む広葉樹種の育成は極めて困難な状況にあります。日々の作業は、まさにエゾシカとの戦いと言えます。

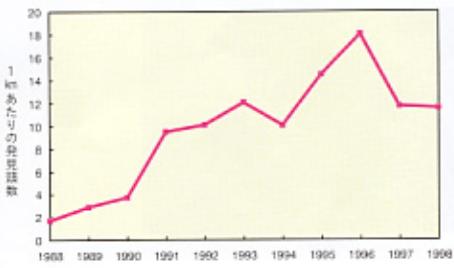


photo/Okada



photo/Okada

岩尾別地区のエゾシカ生息動向



平成11年度には、こんな事を行います。

(本年度は第2区画が作業対象地となります)

◆動物相の復元への取り組みもスタート。まずは魚たちが対象です。

●サクラマスを呼びもどそう！

運動地の川から絶滅してしまったサクラマスの再生に向けての取り組みを開始。幌別川と岩尾別川で、サクラマスの放流試験や生息環境調査を実施します。



●カラフトマス・シロザケの自然産卵を再び！

岩尾別川ではカラフトマスとシロザケを上流へ遡上させ、自然産卵の姿を復元します。



photo/Yamanaka

●開拓農家の家屋保全作業

開拓の歴史を後世に伝えるために、比較的保存状態のよい家屋の保全作業を行います。修繕後の家屋は、交流事業や森づくり作業にも多目的に活用されます。



photo/Yamanaka

●このほか、昨年同様の森づくり作業メニューに加えて、ヒグマの餌となるサルナシをシカの食害から守る「ヒグマの森保全作業」、カツラを中心とする河畔林の再生を目指す「河畔林再生試験」、強風地域での森林化を図る「防風林育成試験」などが予定されています。

これとこ



ホオノキ

photo/Aoki



知床岬

photo/Yamanaka

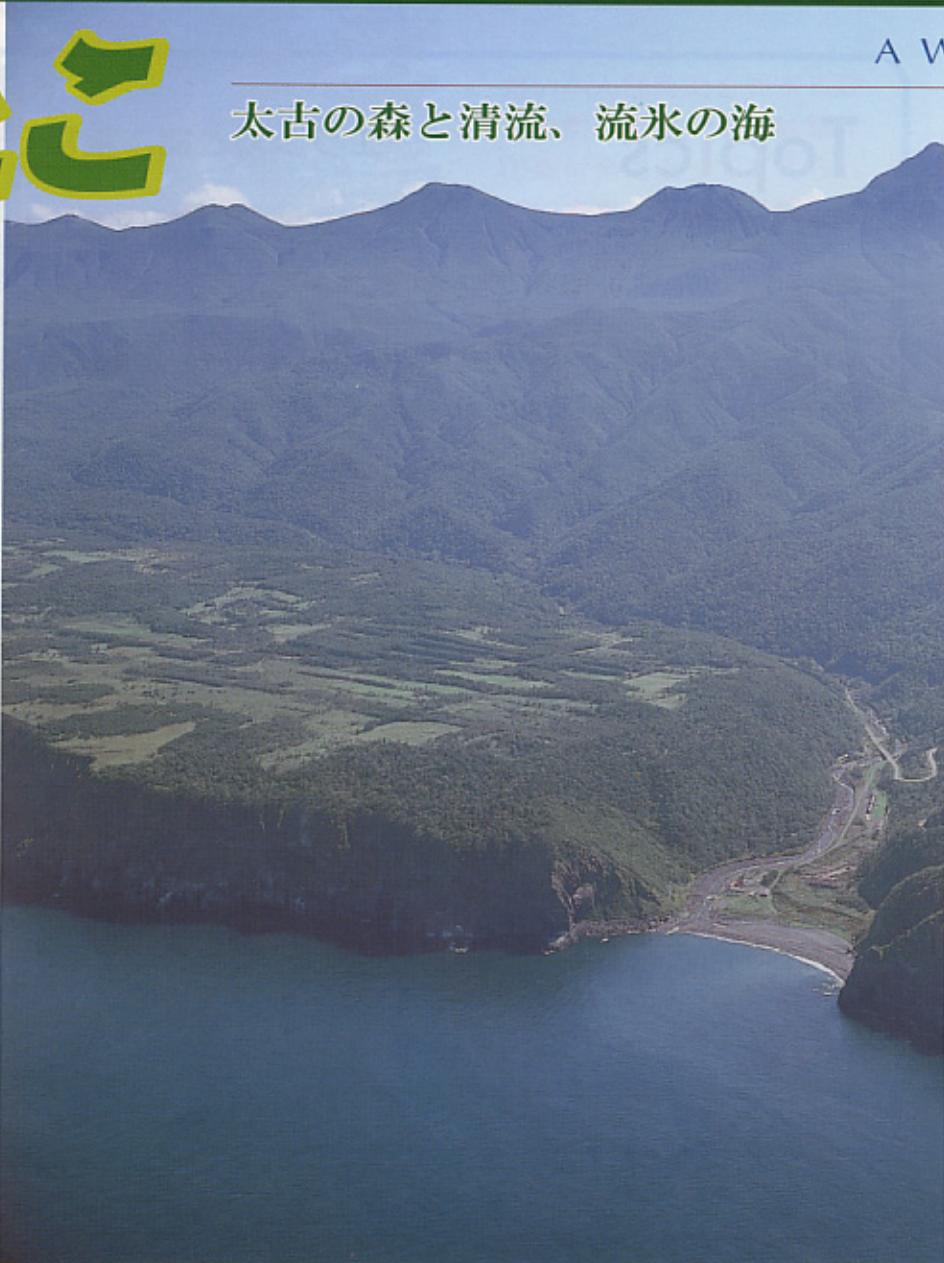


イダシュベツ川河口の原生林

photo/Yamanaka

知床連山と岩尾別川。河口の両側に広がる運動地

photo © Suda Seihan Co.



■河口までつづく渓流、特異な魚類相

知床の川に、ゆっくりと蛇行をくり返す中流や下流はありません。急峻な山腹を流れ下った川は、そのまま勢いよく海へと注ぎ、時には滝となって直接海へと落ちています。

知床の河川には、ほとんどサケ科の魚しか生息していません。コイ科など純粋な淡水魚を欠く特異な魚類相がこの地域の大きな特徴です。しかも、通年河川内で生活しているのは、オショロコマとサクラマス（ヤマメ）だけです。秋には、カラフトマスとシロザケが産卵のために大量に遡上してきます。



幌別川へ大量に遡上するカラフトマス

Photo/Okada



知床のサケマス3種。上からサクラマス、シロザケ、カラフトマス

■降海性オショロコマの南限の地

オショロコマは美しい朱斑をもつイワナの一一種で、知床では河口から源流まで切れ目なく生息しています。知床の川は、まさにオショロコマたちの世界といえるでしょう。知床周辺では、海に降って大きく成長するものもみられ、太平洋西岸の本種の降海型の南限の地です。



オショロコマ。
降海性のものは40cm
近くなる。
Photo/Komiyama

■カムバッカ・サクラマス

運動では、カラフトマスとシロザケの自然産卵を復元することが計画されています。また、残念ながら運動地内の川では絶滅してしまったサクラマスを再生させることも、運動の大きな目標です。

THEALTH OF GIFTS BROUGHT BY PRIMEVAL FORESTS, PRISTINE WATERS & SEA ICE



III は知床の森とオホーツクの海の架け橋

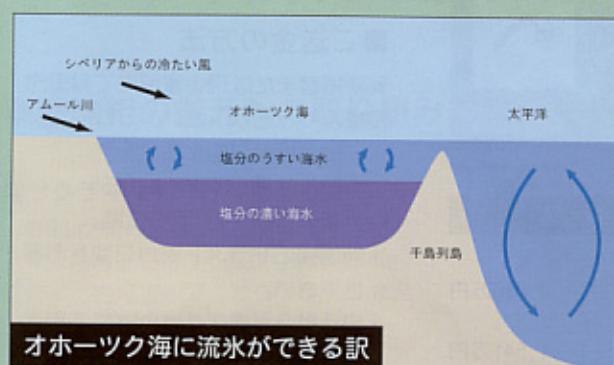
流氷が発達する北の海は、非常に大きな生産力を持っています。海で蓄えたエネルギーを森にもたらすのが、川と魚たちです。知床の川を遡って産卵するたくさんのサケ・マスは、森と生き物たちに大きな恵みを与え、逆に太古の森に支えられた清らかな流れが魚たちを育んでいるのです。そんな北方の自然のダイナミックな循環が今尚つづいていること、海から山まで一体となって保全されている自然こそ、知床の最大の特徴といえます。

「100平方メートル運動の森・トラスト」は、運動地を流れる岩尾別川と幌別川の二つの河川の自然生態系の循環を保全・再生することも、大きな目標にしています。



知床連山とオホーツク海の流水

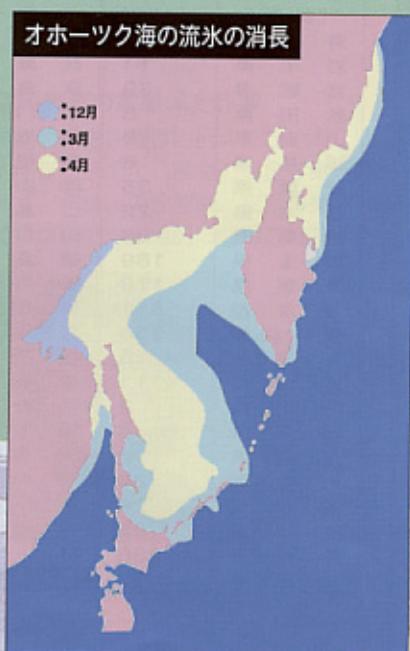
Photo/Yamanaka



■世界最南端の 流氷 の海

本来なら流氷のできないはずの緯度にあるオホーツク海に流氷が形成される原因是、千島列島によって閉ざされて外海との海水の交流が少ないと、そしてアムール川から大量の真水が流れ込むことによります。アムール川の水は、オホーツク海の表層に塩分の薄い層を作り、その低塩分層だけが大陸からの寒風で冷やされて対流し、海が凍るのです。

流氷の海は、冷たく寂しい海ではありません。生産力の高いこの海には、オオワシやオジロワシ、さまざまな種類のアザラシ類やトドなど、たくさんの生き物が集まります。冬、知床の海は、野生の躍動にあふれます。

流氷の上で繁殖するグラカラケアザラシ
Photo/Yamanaka冬の使者 オオワシ
Photo/Nakagawa

National Trust

100平方メートル 運動の森・トラスト

たいへんな時間を要する森と自然の再生。それは毎年の寄付金によって支えられています。皆様のご協力を改めてお願いします。

いのちあふれる森へ

photo/Masuda

都道府県別参加状況
(平成11年3月末日現在)

都道府県名	件数(人數)	都道府県名	件数(人數)
北海道	757	滋賀県	16
[斜里町] (450)		京都府	91
青森県	19	大阪府	222
岩手県	11	兵庫県	121
宮城県	39	奈良県	32
秋田県	8	和歌山县	10
山形県	9	鳥取県	3
福島県	6	島根県	4
茨城県	35	岡山県	13
栃木県	22	広島県	22
群馬県	28	山口県	4
埼玉県	189	山梨県	3
千葉県	179	静岡県	1
東京都	511	愛媛県	4
神奈川県	358	高知県	6
新潟県	15	福岡県	19
富山県	11	佐賀県	19
石川県	8	長崎県	6
福井県	5	熊本県	6
山梨県	5	大分県	7
長野県	24	宮崎県	1
岐阜県	29	鹿児島県	2
静岡県	35	沖縄県	33
愛知県	236	外國	11
三重県	22	計	3,217

参 加 状 況

- 平成9年度
1,616件 2,480万円
- 平成10年度
1,601件 1,541万円
- 合計
3,217件 4,022万円



photo/Yamanaka

■運動に参加されると…

- 将来の森をイメージした募金証書を発行いたします。
- 運動地の森を通じて交流し、森づくりに関わる機会を提供いたします。
- 寄付年の翌年に「しれとこの森通信」をお送りいたします。
- 5年周期の回帰作業期終了年には、報告書をお送りいたします。



- 動物画家、田中豊美さんの手による知床の森と動物たちです。証書左上のスペースに「祝 ご結婚 贈 知床太郎」のようにメッセージを入れることができます。ご友人知人へのプレゼントなどを通して運動を広めていただければ幸いです。
- *地元の斜里木工サークルの方々が手作りをしたハリギリ材の募金証書用の額縁を別途ご用意しています。申込書裏面をご覧下さい。

■ご送金の方法

郵便振替または現金書留にて斜里町役場までお送り下さい。

1) 郵便振替口座の場合

口座番号 : 02740-8-10555

加入者名 : 「斜里町役場」

*通信欄にトラスト寄付口数をお書き下さい。

*申込書を郵送またはFAXにて別送下さい。

2) 現金書留の場合

斜里町役場自然保護係まで申込書と一緒に直接お送りください。

●送付先・お問い合わせ・パンフ請求など

〒099-4192 北海道斜里郡斜里町本町12
斜里町役場 自然保護係
TEL : 01522-3-3131 (内線124)
FAX : 01522-2-2040

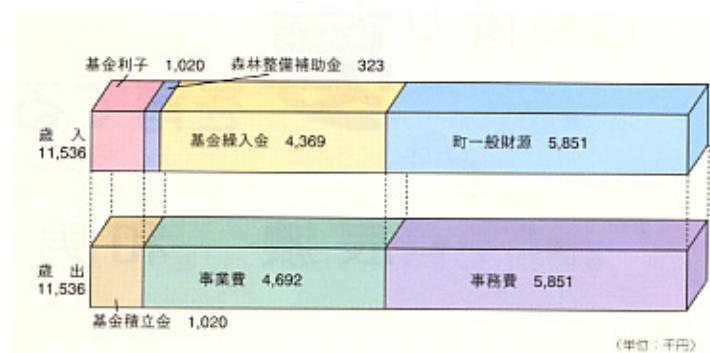


平成10年度決算

■保全管理事業

平成10年度は、新規の土地取得はありませんでした。8haの植林事業255万円、自然教育林植林37万円、93haの森林保険更新75万円などの事業が行なわれました。

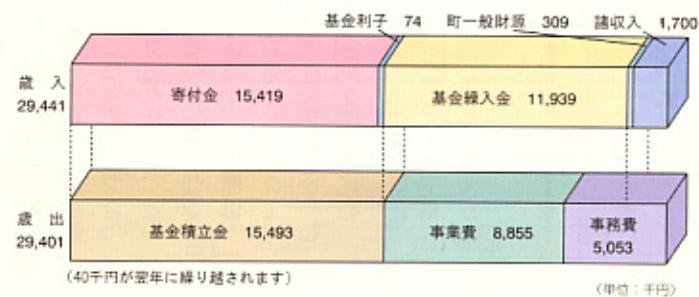
事務費の内訳は、「しれとこの森通信」の印刷・発送に350万円、100平方メートル運動ハウスの展示更新に176万円などです。



■森林再生事業

平成10年度から森林再生事業が本格化しました。事業費として、森の番人と補助員の活動に387万円、作業備品に11万円、資材に11万円、モニタリング調査機材に83万円、交流事業に254万円などを支出しました。

事務費は運動のパンフレットや募金証書等の印刷、臨時事務員の賃金など505万円です。



■森林保全基金と資産の状況

国立公園内森林保全基金の状況

(単位:千円) (平成11年5月31日現在)

國立公園内森林保全基金					
土地保全管理資金 (保全事業のための資金)			森林再生等資金 (再生事業のための資金)		
	H9以前	H10	計	H9以前	H10
歳入	寄付金	522,534	0	24,801	15,419
	利息	65,494	1,019	0	74
歳入	計	588,028	1,019	24,801	15,493
歳出	土地取得	311,167	0	2,668	8,855
	植林	85,225	4,369	3,622	3,084
歳出	事務費	81,543	0	6,290	6,706
計	477,935	4,369	482,304	11,939	18,229
残高	110,093	-3,350	106,743	18,511	3,554

保全された土地の現状 (単位:ha)

運動対象地	保全済み地域	936.17
	(運動による保全地域)	447.56
	(既存町有地)	488.61
	未取得地	24.38
	(全体の2.5%)	

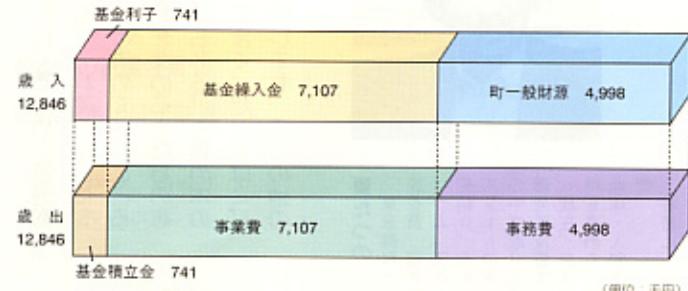
*事業費には「森林再生事業」と「森の交流事業」にかかる費用が含まれます。



平成11年度予算

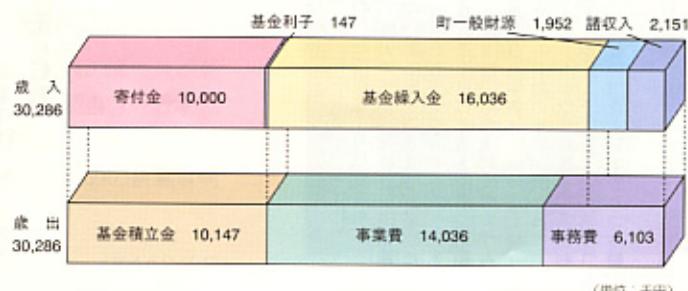
■保全管理事業

事業費は、約10haの植林事業、溝期を迎える約70ha分の森林保険の更新など計711万円が予定されています。土地取得費用は、交渉がまとまった場合、予算補正いたします。事務費は、「しれとこの森通信」の印刷・発送の費用など計500万円です。



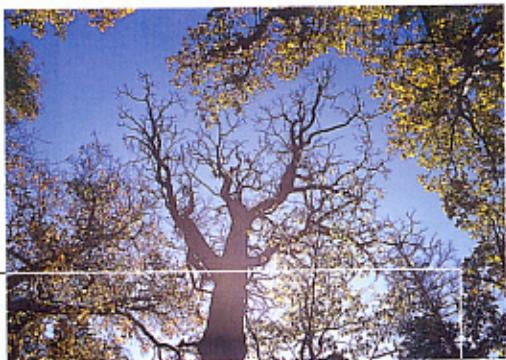
■森林再生事業

平成11年度には、サクラマスの再生など多様な自然再生事業が展開されます。事業費は計1404万円。森の番人や補助員の活動に397万円、シカの食害対策と作業拠点整備に408万円、森林の生育やシカの生息動向に関するモニタリング調査に75万円、サケマスの自然産卵再生や稚魚の放流に60万円などが計画されています。事務費にはパンフレットなどの印刷・発送、臨時事務員賃金など610万円が見込まれています。



百年後の夢を育てる

●エッセイ● 辰濃 和男



photo/Yamashita

今年もまた、知床を訪ねた。今は、知床の森を再生させようと、この風景の大さな運動について書かたい。

そう思って森に入つたら、クマに出あった。

正確にいえば、クマが崖の中腹の細い道を一回散に逃げてゆくのを見た。親離れしたばかりの小さなクマで、驚くほどやわらかな、すばやい動きだった。斜里町役場環境保全課の山中正実さんがしきりに花火弾を撃つている。

「もう現れないでくれよ。頼むせ」そんな調子で二発、三発と弾を放つ。花火が森の深みに消えた。「ひづれに来ると怖いぞ」といふことを教えるために撃つんですね。

山中さんがいった。斜里町は、クマとの「棲み分け」をやっていい。できるだけクマを殺さず、しかも人びとの安全をはかるため、クマが現れるごとに担当者がかけつけて威嚇の弾を放つ。それでも、同じクマが何回も現れる場合がある。

最近、観光客がクマにソーセージを投げ与えた。車の中からだろう。味をしめたクマは何回も現れるようになつた。威嚇弾を使つても、出でくる。もしも八回、九回

じめのクマが現れるようになれば残念ながら「処分」せざるを得ない。ソーセージが結局はクマを殺すことになる、という話を聞いた。

さて、知床の「夢の森」を育てる話だ。読者の中には、例の「知床で夢を買いませんか」の運動で寄付をされた方がたくさんいるつるはるはすだ。この二十年で旧開拓地の買い取りが終わつた。この運動は、全国五万の人びとの支えで成功した希有の環境保護運動だつた。

斜里町は去年から「知床で夢を育てませんか」という新しい運動に入っている。五百六十というひろびろとした土地にミズナラ、トドマツ、イタヤカエテ、カツラなどが繁茂し、シマフクロウやオジロワシやヒグマやエゾリスが生息する「太古の森」を再生させるのは容易なことではないし、長い歳月がかかる。

牛来昌町長はじめ、再生計画にかかる人びとの話を聞きながら、心がわきたつ思いになるのは、この人たちがさりげなく「百年後、二百年後」を語っているからだ。政治の論議で、百年後の日本を語る言葉を聞くことはまづない。

日本の森、日本の大気、日本の川、日本の地下水の百年後を憂えて行動に移ろうといふ言葉を聞くことがない。いや、私たちの日常でも、百年の単位で行動を起こすことは

めったになつ。

斜里の人びとは違う。百年後、二百年後は「大きく深い原生の森」にするのだという目標を定め、一歩一歩、作業を進めている。

植えた木がすぐすぐと育つ環境ではない。厳寒の地だし、激増したエゾシカの食害がある。苗はたまらやられる。若木の皮もはがされる。シカを殺さずに、木を守るにはどうしたらいいのか。

植えられたばかりの広葉樹の苗には網が張られていた。「知床自然教室」に参加した子どもたちが一本一本の若木の幹をペットボトルに入っていた。木を無事に育てるために苦労を重ねながらも、それでも頑固にシカは殺さないと決めていたところに、この運動を進める人たちの志を見た。苗畠もある。土着の木のタネをここにまく。だとえばミズナラのタネにしても、遠くの地

世紀の日本人には味なことをする連中もいたんだ」と。(平成10年「朝日家庭便利帳暮の風」に連載中の「風遊風学」の声をあげるであろうことは想像できる。彼らは思うだろ。二十

世紀の日本人には味なことをする連中もいたんだ」と。(平成10年「朝日家庭便利帳暮の風」に連載中の「風遊風学」の声をあげるであろうことは想像できる。彼らは思うだろ。二十



■たつの かずお 昭和55年

東京商科大学(現一橋大学)卒。元朝日新聞社説

説員。昭和50年から13年にわたって執筆をされた

コラム「天声人語」の中で英國ナショナルトラスト

を紹介。それが、これと100平方メートル運動

スタートのきっかけとなつた。その後同氏のコラム

の中で取り上げられた100平方メートル運動は、

爆發的反響を呼び、今日の運動の基礎が築かれた。

現在、日本エッセイストクラブ専務理事、雨水利

用を進める全国市民の会会長、環境事業団運営委員

会、人間環境フォーラム評議員、日本野鳥の会顧

問書に「天声人語自然編」、「文章の書き方」、「風と遊び風に学ぶ」など

ものではなく、この知床の森で採取したものをおぼく。そういう細心の配慮があつた。

新発足の専門委員会議は、世代が変わつても太古の森をめざす原則は変えないという「森の憲法」をつくつた。

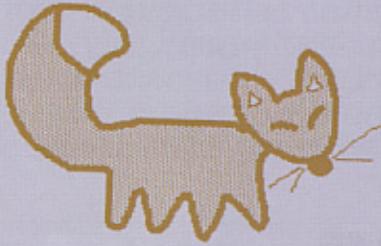
知床の森に来てみませんか!

平成11年度 しれとこの森交流事業のご案内

今年も、以下の3つの企画を用意して皆様のお越しをお待ちしております。お問い合わせ・申し込みは随時受け付けております（各企画で受付先が異なりますのでご注意下さい）。

■知床自然教室

運動参加者の皆さんとの子どもたちが、キャンプをしながら知床の森、川、海で思いっきり遊び、森作りも体験する7日間です。

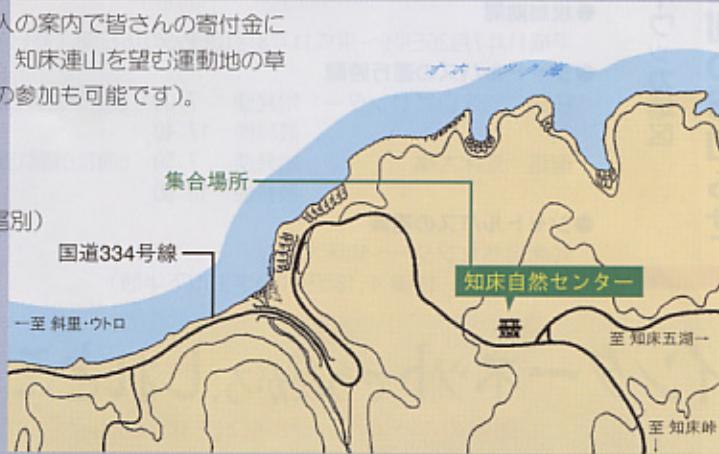


- ◆期 間：平成11年7月30日から8月5日（うち、野外泊は3泊4日）
- ◆対 象：小学校4年生～高校3年生
- ◆参加費：35,000円～143,000円（航空運賃、滞在費のすべてを含みます）
*参加費は出発地によって異なります。
- ◆集合・解散：全国の主要な各空港集合→女満別空港→知床の森→女満別空港→各空港にて解散
*集合場所から解散場所まで、スタッフが責任を持って引率いたします。
- ◆締 切：平成11年6月30日（水）
- ◆問い合わせ・申し込み先：（詳しくは以下までお問い合わせ下さい。資料を送付いたします）
自然教育研究センター「知床自然教室係」 TEL:042-528-6595 FAX:042-528-6596
*斜里町内の方は、斜里町役場自然保護係までお問い合わせ下さい。

■しれとこ 森の集い（記念植樹祭）

知床の森に集い、木を植えましょう。午前中は、森の番人の案内で皆さんの寄付金によって行われている森作りのようすを見学します。午後、知床連山を望む運動地の草原で、植樹祭を行います（午前のみ、あるいは午後ののみの参加も可能です）。

- ◆期 日：平成11年9月19日（日）
- ◆集 合：午前の部 9時 知床自然センター（斜里町岩尾別）
午後の部 13時
- ◆参加費：無料
- ◆問い合わせ・申し込み先：
斜里町役場自然保護係
TEL：01522-3-3131（内線124）
FAX：01522-2-2040



■森づくりワークキャンプ

森の番人とともに、森作り作業にいい汗を流しませんか？ 皆さんの夢によって育まれる森を体験する6日間。老若男女和気あいあいの合宿形式の森作り作業です。

- ◆期 間：平成11年11月1日～11月6日（5泊6日）
- ◆対 象：18才以上
- ◆定 員：12名（応募が定員をこえた場合、抽選とさせていただきます）
- ◆集合・宿泊：知床自然教育研修所（斜里町ウトロ）
- ◆参加費：15,000円
*参加費は食費の実費等です。集合場所までの交通費等は各自の負担となります。
- ◆締切：平成11年8月20日（金）
- ◆問い合わせ・申し込み先：
知床自然センター TEL：01522-4-2114 FAX：01522-4-2115



photo/Okada



自動車通行規制のお知らせ

知床国立公園カムイワッカ地区



photo/Okada

カムイワッカ地区の自然環境保全と渋滞緩和のため、交通規制を行いますのでご協力をお願いします。カムイワッカ方面へは、シャトルバスをご利用下さい。

●規制路線 道道知床公園線の知床五湖以奥（上の地図参照）

●規制車両 路線バス（シャトルバス）及び自転車を除く一般車両

●規制期間

平成11年7月26日㈪～平成11年8月10日㈫の16日間（終日）

●シャトルバスの運行時間

往路：知床自然センター 始発便 7:00 以後20分間隔で運行します。
最終便 17:40

復路：知床大橋 始発便 7:50 以後20分間隔で運行します。
最終便 18:30

●シャトルバスの運賃

知床自然センター～知床大橋
片道 590円 往復 1,180円（小学生以下半額）

■旧運動

「しづとこ100平方メートル運動」

参加者の皆様へ

*皆様のご寄付によって保全された土地は、譲渡不能の原則を定めた条例によって今後とも厳正に保全されます。

*旧運動の残る課題は、「保全管理事業」の中で平成13年までを目標に達成をめざします。

*毎年の通信の発行費用が、300万円以上にも及んでいます。平成13年以降は、通信の発行を随時必要に応じて行うことにさせて下さい。

*新運動の交流事業への参加は、今後とも可能です。

■新運動

「100平方メートル運動の森・トラスト」
参加者の皆様へ

*毎年の皆様のご寄付で、森と自然の再生と参加者の交流事業が行われます。

*ご寄付いただいた年の翌年度に「しづとこの森通信」をお届けします。今回は、平成10年度にご寄付いただいた方にお送りしています。

*5年周期の再生作業の結果を回帰作業終了翌年に、報告書としてお知らせします。皆様にお送りするのは、平成15年になります。

*交流事業のご案内は毎年お送りできませんが、定期で行われておりますので、お問い合わせ下さい。いつでもお申し込み可能です。

インターネットでつながる、しづとこ

運動のホームページが開設されました！

<http://www.ohotoku26.or.jp/shari/100m2/>

*知床の季節の情報、森づくりの様子をお届けします。

*知床自然教室など「しづとこの森 交流事業」に参加をご希望の方は、こちらで情報を入手ください。

いつでも参加を受け付けております。



カードで運動をご支援下さい！



(財)緑の地球防衛基金と(株)ダイエーオーエムシーでは、地球環境保全に貢献するクレジットカードを発行しています。その中の「知床の自然を守る」カードは、ご利用額の0.5%が、カード会社の負担で「100平方メートル運動の森・トラスト」へ寄付されます。買い物をしているだけで、新たな自己負担なしで運動をご支援いただけます。

■問い合わせ先

東京都品川区西五反田7-21-1
㈱ダイエーオーエムシー提携加盟店部「OMCエコロジーカード」係
TEL: 03-3495-8610

協力・写真提供

辰濃 和男
朝日新聞社
小宮山 英重
青木 则幸
村田 良介
須田 製版 KK
中川 元
増田 泰
岡田 秀明
中山 正実